

鶴 弥 鶴見哲社長インタビュー



鶴見 哲(つるみ さとる)
1966年生まれ。89年、鶴
弥入社。97年、取締役就任。
2000年、常務取締役就任。
04年、代表取締役専務就任。
08年から代表取締役社長。

日本の三大瓦生産地の一つ、三河地方で生産される三州瓦は日本一の生産を誇り、全国シェアの七七%を占める。その中でも創業一二八年の半田市州の崎町、鶴弥は三州瓦の約三分割の出荷量で生産量と共にトップの企業。鶴見哲社長に「来し方行く末」を聞いた。

——御社の歴史について。

鶴見 刈谷生まれの曾祖父が長野で瓦職人修業を経て、地元に戻って明治二十年、家内工業的な瓦生産を始めたのがスタート。その後、戦争や天災、恐慌などの荒波にも耐えながら家業を維持してきたが、昭和三十四年九月の伊勢湾台風の直撃を受け家も工場も流されました。父親の栄は祖父から「好きなことを選べ」と言われたが、友人知人らが復興の手伝いに駆けつけてくれて一念発起。

四十三年、目標だった会社組織に衣替え、さらに地場産業の地位に甘んじず上場を視野に業績も飛躍的に拡大させました。そして平成六年、名証二部上場（十四年、東証二部上場）。今の地位を作ったのは先代社長の父。私は実質二

代目ですね。

——製品の特徴は？

鶴見 防災瓦を十一年、他社に先駆けて開発したこと。前年秋、紀伊半島から愛知県をかすめた台風七号で飛ばされた瓦屋根の補修に行つて帰ってきた社員らが、「風で飛ばされない瓦が造れないか」と話したのが発端。それまでは釘を打って留めていたが、研究の末、下の瓦の2cmの突起が上の瓦の窪みにはまりロックする製品を考案。防災機能の向上と同時に生産工程も効率的になり二倍にアップするという画期的なものでした。

——その他にも開発されていると聞きました。

鶴見 さまざまありますが、昨年十月発売した陶板の壁材です。外壁だけでなく内壁にも使えます